

令和2年度 東京都立中野工業高等学校（全日制課程）学校経営報告

【教育目標】

人権尊重の精神と自主独立の精神を高める 責任感と創造力の育成を図る 地域社会・国際社会の理解及びそれに貢献できる能力を確立する

1 目指す学校

本校は、エンカレッジスクールに属する工業高校として、生徒を力づけ、自信をもたせ、一人一人の潜在的な能力を伸ばしていくことを目指す。

- (1) 入学し、卒業して良かったと心から思える学校
- (2) 落ち着いて学べる環境をつくり、能力に応じたきめ細かい学習活動を行い、学力を伸ばさせる学校
- (3) 一人一人の人権を尊重し、社会的規範と思いやりの心を育てる学校
- (4) 主体的、意欲的に進路選択ができる能力とともに、社会性を育成する学校
- (5) 保護者や地域住民と連携して生徒を育てる地域に開かれた学校

2 中期的目標と方策

(1) 学校経営

- ①教職員が相互に信頼し、協力し合える職場環境の構築を推進する。
- ②校務分掌の取組目標と課題を学校全体で共有し、全教職員が一致して課題解決に取り組むとともに、進行管理状況表の作成と確認を行い、組織対応力を向上させる。
- ③自律経営推進予算の編成と計画的・効率的執行及び施設管理を行い、教育活動の充実を図る。
- ④授業評価や学校評価アンケート結果等を基に生徒の実態と課題を把握し、適切で効果的な教育課程の編成と教科指導法の改善を図る。
- ⑤令和10年度の新校舎完成を目指し、施設・設備等に関する計画的な検討と備品管理を行う。
- ⑥学校運営連絡協議会での提言や授業公開等の意見を積極的に取り入れ、学校運営の改善を図る。
- ⑦校内研修等を通して、体罰等の服務事故の根絶を目指す。

(2) 学習指導

- ①習熟度別授業、少人数編成授業を活用し、生徒の基礎学力の定着と学力の向上を図る。
- ②確認テストや基礎力診断テスト等を活用し、生徒の学力を把握することで3年間を見通した学習計画を策定し、学習指導方法の計画的な改善を図る。
- ③宿題や課題に対する確実な提出指導を徹底し、「最後までやり通し、諦めさせない指導」を実践する。
- ④教科会や校内研修会（授業評価等）及び教員の相互授業参観を活用し、分かる授業を展開する。
- ⑤ICT機器等を活用した授業を充実させ、学習に対する生徒の興味や関心を高める。

⑥長期休業日を活用し、東京都教職員研修センターが開催する教科等・教育課題研修等に複数の教員を参加させ、教科指導力の向上を図る。

⑦特別な支援を要する生徒の対応として、個別支援計画を策定し対応する。

(3) 生活指導

①基本的な生活習慣及び規範意識を確立し、道徳教育の充実を図る。

②特別活動や部活動等と学習活動との両立を図り、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育てる。

③安全教育を実施し、健康と安全保持の充実を図るとともに事故防止に努める。

④毎日の朝食摂取率の改善・向上やSNSの使用時間の制限等により、基本的な生活習慣を改善・定着させる。

⑤部活動体験を計画的に実施することで部活動への加入を推奨し、部活動の活性化と体力の向上を図る。

(4) 進路指導

①3年間を見通したキャリア教育計画（エンカレッジスクール版）を策定し、望ましい勤労観・職業観及び社会性や協調性を育成することで、生徒の進路希望の実現を図る。

(5) 地域交流

①地域に根ざした「体験学習」や環境教育（地域美化活動）を実施するとともに、学校施設開放を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりを行う。

②地域の教育力を部活動等に活用し、恒常的な活動を目指す。

(6) 防災教育

①東京都及び中野区と連携し、計画的な防災教育の充実に努める。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の目標と方策

①学習指導

ア 学力向上研究校（校内寺子屋）事業の実施要項に基づき、放課後等に学習の場を確保することで、学業不振による中途退学の防止を図る。

イ 授業に臨む姿勢の共通指導と共に、授業に参加する態度の改善を図る。

ウ 補習や宿題及び週末課題等を課し、学習習慣と基礎学力の定着を図る。

エ 学力の伸長を図るため、放課後や長期休業中の補講・補習を実施する。

オ 「学力スタンダード」等に基づき授業の目標と活動を明示することで、意欲的な授業展開を図る。

カ 資格取得及び検定試験受験の奨励等により、学習意欲と自己効力感を高める。

②生活指導

ア 自立支援事業継続校として、SCやYSWとの連携を深めるなど、中途退学者や不登校生徒等への組織的な対応を図る。

イ 生活指導指針を全教職員で共通理解し、教員により差異がない指導を徹底する。

ウ 基本的な生活習慣の定着を図るとともに、社会の構成員としての規範意識を高める。

エ 校内研修会等を通して教員のカウンセリングマインドの向上を図り、生徒との信頼関係を構築する。

オ いじめ防止基本方針に基づき、生徒に年3回のアンケートを実施する。また、SCを活用したいじめの早期発見及びいじめ防止理解研修を実施する。

③進路指導

- ア 「インターンシップ」や「企業見学」等と関連させ、進路希望実現への意欲を高める。
- イ 進路目標を明確にするため、面談データ（確認テスト・基礎力診断テスト等）を作成及び活用し、「最後までやり通し、諦めさせない指導」を行う。
- ウ 進路指導部、学年及び保護者の三者が一体となって緊密な進路指導を行う。
- エ 進学希望者には放課後の学習指導を行い、受験に対応できる学力を身に付けさせる。

④特別活動

- ア 地域行事への参加、研究発表大会等への参加を奨励し、達成感や自己肯定感を醸成する。
- イ HR活動や部活動等を通して、相互に信頼し、思いやる心を育てる。
- ウ 生徒会活動、ボランティア活動を推進する。
- エ 部活動を活性化させ、体力の向上を図る。

⑤安全・安心、健康づくり

- ア 関係機関と連携したセーフティ教室等を実施し、安全指導・健全育成を行う。
- イ 関係機関と連携した避難訓練や宿泊防災訓練を実施する。

⑥地域交流

- ア 「学校の見せる化」を実践することで、学校行事や授業公開での参観者増を目指す。
- イ 在学中から社会と関わる機会をつくり、社会の一員であることを自覚させることで、主権者意識の醸成を図る。
- ウ 「体験学習」等において、地域人材の活用を図る。
- エ 学校施設開放（体育施設等）や地域住民のニーズに合った公開講座を実施する。

⑦学校経営・組織体制

- ア アクティブ・ラーニング推進校として、他校の模範となるような教科及び類型横断的な授業を開発する。
- イ 服務事故防止研修を計画的に実施し、教職員のサービスの厳正を期す。
- ウ 授業評価の活用、研究授業・校内研修の充実により、授業改善を図る。
- エ 環境保全活動を積極的に行い、地域に信頼される学校づくりを推進する。
- オ 「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」等を踏まえ、週当たり2日以上 of 休養日を設ける。また、1日の活動時間を平日で2時間程度、学校の休業日で3時間程度とし、部活動の負担を軽減する。
- カ 隔週末と長期休業日を定時退庁日とし、教職員一人一人に時間を意識した働き方の実践を促す。

(2) 重点目標と方策

①学習指導

- ア 学力向上研究校（校内寺子屋）として、義務教育段階の基礎学力の定着状況が十分でない生徒に対し、外部人材による学習支援体制を構築するとともに、組織的に管理・運営を行う。
- イ 次期学習指導要領導入に向け計画的に準備を進めるとともに、特色を発揮できる教育課程を編成する。
- ウ 基礎学力の定着や生徒の進路希望の実現等を目指し、放課後や長期休業日等に補習を実施する。

エ 教員相互の授業観察や年間2回の「生徒による授業評価」の結果等に基づき、校内研修を実施し、授業力の向上を図る。

オ 学力向上推進委員会を中心に、学力スタンダードの策定と基礎学力の定着に向け、組織的に取り組む。

カ 年度末に学力スタンダードの評価・検証を行い、次年度に向けた改善策を立てる。

②生活指導

ア 不適切なSNSの利用等をなくし、安全で健康的な生活習慣を定着させる。

イ 教科指導や特別活動等を通して、社会の構成員としての規範意識と自己肯定感を身に付けさせる。

ウ 身だしなみ指導を徹底し、地域から信頼され、安心・安全に学べる学校を築く。

③進路指導

ア 3年間を見通した進路指導計画の策定と実施及び進路講演会等の実施により、生徒全員の進路希望実現を図る。

イ 個々の生徒の進路希望の実現に向け、講習・補習等を組織的・計画的に実施する。

ウ 生徒及び保護者に「進路の手引き」を配布することで、学校と家庭とが連携した進路指導体制を構築する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
学校経営推進部	1 学校経営マネジメントの強化 2 学校経営計画の重点目標の実現 3 副校長の支援	1 エンカレッジスクールの完成年度を迎え、各分掌間の円滑な連携を行うことで、組織的な対応を強化した。また、直面している課題の解決だけでなく、今後の展望を踏まえた検討を行った。 2 各分掌で掲げた取組目標に対し、分掌主任の進行管理の徹底を図り、情報の共有を行うことで、分掌を超えた横断的な取組を実施することができた。 3 様々な事案の状況が把握できるよう、常に報告を行うことを徹底し、副校長からの指示を確実に浸透させ、円滑に事案処理ができるよう副校長の支援を行った。
キャリア技術科	1 工業三類型の教育課程の開発 2 戦略的な企業開拓 3 資格取得への取組み 4 産振備品、薬品等の計画的な廃棄 5 産業教育設備等の効果的な活用	1 情報技術基礎については、計算技術検定指導や情報系授業の指導方法について検討した。ものづくり基礎については、昨年度の反省を踏まえ補講やレポート指導等についてキャリア技術科として検討した。 2 企業開拓は、新型コロナウイルスの影響でできなかった。次年度は新規開拓も継続して行う。また、インターンシップ受入企業との連携もつなげた。 3 計算技術検定：(4級3級)・パソコン利用技術検定：(3級、2級、1級)・情報技術検定(3級、2級)・ガス溶接技能講習と多くの資格取得に取り組んだ。 次年度の1年生は、4級の合格率の向上、3級受験者の増加を目指す。 4 備品チェックなどを行い、廃棄予定備品の把握を進めることができた。 有害薬品等のリスト化、廃棄処理が進んだ。 5 実習や課題研究、選択科目などで有効活用している。消耗品等の購入を計画的に進める。次年度も継続する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
教務部	1 教育課程の適正な実施 2 諸帳簿の適正な管理 3 入学者選抜の実施内容の検討 4 エンカレッジスクールにおける学校設定科目の編成 5 校内規定の検討 6 広報活動の充実 7 寺子屋事業	1 教育課程委員会や拡大教務部会を主催し、意見交換を経て来年度の新教育課程の確定に向け、準備を行った。エンカレッジスクール完成年度を迎え、準備を継続した。 2 体験Ⅰ・Ⅱの成績処理について、入力方法の統一化を図り、周知徹底した。各学年への出席停止の扱いや成績入力日程等、正確な入力・保存の呼びかけも継続する。 3 入選委員会と問題作成委員会で適正な実施をすることができた。本校の求める生徒像が取り組みやすい内容等になるように、適切な問題を作成した。来年度は問題作成委員の選出のほか、問題作成方針や内容の厳選を行っていく。 4 授業の展開数の増加による使用教室一覧の作成と全・定の教職員への周知を実施した。学校設定科目の精選と来年度時間割の早期確定は毎年度行う。 5 エンカレッジスクール完成年度の状況を把握し、評価・評定の改訂、出席停止の扱い等、検討して周知した。 6 コロナ禍の影響で中学校訪問等の広報活動は制約を受けた。その代替として個別相談会や電話による個別相談を実施したが、全体の取組としては不十分であった。 7 学期ごとに対象生徒を見直し、1年生延べ数88名が基礎学力の向上に取組んだ。
生徒部	1 学校チームとして一体となった指導の確立 2 基本的な生活習慣の確立 3 オリンピック・パラリンピック教育の推進 4 地域社会との連携による社会貢献活動の充実 5 部活動について 6 特別指導について 7 防災教育について 8 遅刻指導について 9 適切なSNSの利用について	1 生徒指導規定全体の見直しや身だしなみ指導のあり方についての検討検討を継続し、年度内で概ね改善を進めることができた。次年度は全職員が共通の基準で指導できるよう、さらにわかりやすいものにする。 2 毎朝校門前に立ち、生徒部で身だしなみや挨拶の指導、公共のマナーを守る指導などを行うとともに、生徒会活動の一環として「あいさつ運動」を行った。次年度も継続的に実施していく。 3 開催が延期となり、思うように進まなかったが、来年度も継続的に進めていく。開催内容に応じた教育を選択していく。 4 生徒会を中心に野方スタンプラリーに参加し、地域の小学生を対象にボランティア活動を行った。野方クリーンアップは感染症拡大のため今年度は見送りとなった。 5 都の指針に合わせて感染症予防対策を徹底した。活動時間や内容の制限はあったが、各部活動顧問を取りまとめ、調整を行った。 6 家庭と連携し問題行動だけでなく生活や学習活動の見直しを図る中で再発を防ぐことを目指した。 7 宿泊防災訓練は中止となったために2学年を対象に防災教室とアルファ化米の試食体験を行った。 8 通常の遅刻指導のほか、さらに指導効果を上げるため、早朝登校の導入や面談の充実を図り、成果をあげた。 9 加害、被害を防ぐことやマナーなどについて学年集会や資料の配布などを通じて指導を行った。
進路指導部	1 キャリア教育の充実について 2 産業界との連携によるキャリア講座の実施 3 インターンシップの拡充 4 就職試験に向けた取組 5 定着率・離職率の調査の実施	1 来年度、新1学年より段階的に従来の取り組みを見直しより効果的な運営方法を構築する。 2 今年度のコロナ禍による特殊事情のため、外部との連携は行えなかった。来年度、状況が好転した段階で新たに取組む予定。 3 4月当初より準備を急に進めた結果、予定通り実施することができ、充実した就業体験をさせることができた。 4 基礎学力の充実を図り、必要に応じて各種の適性検査にも対応できる体制を構築した。また全員に模擬面接を実施し、一次試験で7割程度の合格を果たした。しかし、受験回数が多い回数になる生徒も多いため、更なる就職試験対策を検討する。 5 企業への聞き取り調査の結果、平均との大きな差は見られなかったが、コロナ禍の特殊事情によるケースは散見された。
第1学年	1 学年の指導体制の構築 2 中途退学防止に関する取組 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化 7 生徒のチャレンジの支援 8 基本的な生活習慣及び規範意識	1 学年目標、毎週の目標を設定して、生徒の指導体制を学年で統一した。また、新たに学年委員を設けた結果、自覚を持ち、自主的に行動が取れる生徒が増えた。 2 基礎学力診断テストの結果を分析し、教科担当と連携して個々に合わせた、きめ細やかな指導を行った。朝学習の内容改善、放課後の補習などを行った。あきらめず、まじめに取り組むことで評価されること指導した。 3 保護者の連絡・情報交換など随時行い連携を深めた。また、問題などが発生した場合は常に保護者に連絡し、連携を図った。今後は保護者会の実施や3者面談を組織的に実施していく。 4 学年集会や毎日のホームルーム活動において、生徒として礼儀正しい生徒の育成を図るため、普段からあいさつ・身だしなみ・時間を守る指導を行った。今後は更に生徒部、保護者との連携した共通理解での指導が必要である。 5 キャリアガイダンス年間指導計画を基に、3年間を見通した1学年の進路活動につながる授業を展開した。また、外部機関の活用や学年全体での進路ガイダンスを実施した。今後は進路部と連携を重視し卒業生講話も含め行っていく。 6 コロナで各行事が中止された中、2学期末のスポーツ大会では各クラスで協力しながら、入賞目標に努力した。今後は文化祭や体育祭等の行事において、生徒一人ひとりが自分の役割を確認し意識ある行動やクラスの団結感が取れるような指導を行っていく。 7 各教科担当と連携し、放課後等を活用し、補習・課題などを行い、個々の生徒に合わせたきめ細やかな指導を徹底した。さらにあきらめず、まじめに取り組むことで評価されることを指導した。今後はボランティア活動等を含め、自らが計画的、積極的な行動や参加をすることにより、他者を思いやる心や達成感の醸成を目的とした指導計画を作成し実施していく。 8 毎日のホームルーム活動や学年目標、毎週の目標を設定を行った。多くの生徒が遅刻指導や身だしなみ、時間を守る、提出物等を期限内に出すなどの生徒が増えた。今後も多くの生徒が規範意識の自覚をもった行動がとれる方策を計画し、実施する。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
第2学年	1 学年の指導体制の構築 2 中退防止に関する取組 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化 7 生徒のチャレンジの支援 8 基本的な生活習慣及び規範意識	1 学年団で一致団結し、他の分掌と連携し指導した。特にSNSに関連するトラブルが多かった。また、いじめや体罰を意識した学年になった。今以上に指導の充実を図り、問題行動やいじめ・体罰の無い学年を目指す。 2 SC、YSW、カウンセラー等と連携し、退学防止を図ったが進路変更ゼロにはならなかった。引き続き退学防止にむけて連携の強化と指導の充実を図る。 3 保護者と連絡を密にし、協力しながら生徒指導等に当たった。次年度も保護者と連絡を密にし自己の進路に対する目的意識を持たせた進路指導の充実を図る。 4 生徒部と連携し、服装・頭髪指導等を継続的に、粘り強く行った。引き続き連携を強化し、指導の徹底を図る。 5 進路指導部と連携し3日間のインターンシップ、進路ガイダンス等を実施し、目的意識をもたせた。就業体験を活かし、3年次の就職活動への意識づけができた。 6 コロナ禍で大きな行事が中止となったが、次年度は計画的な実施を図り、活性化していきたい。また、最上級学年として模範となるような企画・運営に努める。 7 資格取得に対する意識を高めさせ、受験を促すとともに、取得に向けた支援を積極的に行った。 8 毎日担任団で各クラスの生徒状況を共有し、生活習慣が乱れないように、きめ細やかに指導した。
第3学年	1 学年の指導体制の構築 2 中退防止に関する検討 3 保護者との連携 4 あいさつ・身だしなみ・時間を守る指導の充実 5 キャリア教育の充実 6 行事の活性化 7 生徒のチャレンジの支援 8 基本的な生活習慣及び規範意識	1 学年団が一致団結し、生徒部や進路部などの他分掌と連携することで、学年に関わる教員が共通理解のもと指導に取り組み、3学年の指導体制を構築することができた。 2 養護教諭やSC・YSWなどと連携を図りながら、生徒の個に対応した指導を実施することができた。学年だけでなく、エンカレッジスクールとしての中退防止を学校としてどのように行っていくかが課題である。 3 きめ細かな電話連絡をはじめ、特に進路決定に際しては、コロナ禍において細心の注意を払い、保護者面談や三者面談を実施することで、最適だと考えられる保護者対応を実施した。 4 学年で生徒状況を把握して共有するように努め、LHRなどを活用することで、クラス間で相違がないよう、統一した指導を行った。 5 進路指導部と連携して進路ガイダンスを実施したり、キャリアガイダンスの授業を活用して、就職や進学など進路先に応じた指導を行うなど、生徒の個に対応したキャリア教育を充実させた。 6 コロナ対策を講じた修学旅行や校外学習などを計画したが、実施に至らなかった。しかし、卒業アルバムのクラスページ用に写真撮影の時間を設けるなど、コロナ禍でも学校生活が活性化するように努めた。 7 進路指導を軸に、生徒が自分のやりたいことにチャレンジできるよう最大限の支援を行った。 8 学級運営や進路指導を通じて、基本的な生活習慣及び規範意識の指導を行った。
機械類型	1 授業や実習を通じて規範意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをとおした職業人の育成 4 企業・外部施設との連携	1 その時々々の機会に実施し、成長を見ることができなが継続指導が必要である。来年度から通級制度が導入され、エンカレッジ生としての対応のみならず今後も指導の工夫・改善が必要と考える。 2 隔年度実施のガス溶接技能講習と基礎製図検定の実施、3級情報技術検定への促進を図った。今後も授業内や放課後の取り組み等で資格取得を推進する。 3 ものづくりへの興味関心を高めるための工夫を検討し、生徒のやりがいや帰属意識の向上を図った。 特に、実習朝礼での指導を充実させ、自分たちが置かれている立場や今後何をすべきなのかを考え、理解させた。 4 例年東京で行われていたFOOMA JAPANは、地方での実施となり見学ができなかった。 拠点校実習は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、実施校と調整のうえ実施した。
食品工業類型	1 授業や実習をとおした規範意識の向上 2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをとおした職業人の育成 4 企業・外部施設・人材の活用	1 継続的に実施したが、一人残らずというわけにはいかなかった。今後も引き続き、規範意識の向上を指導していく。エンカレッジを踏まえ、規範意識を持った生徒の育成指導の徹底を図る。 2 初級バイオ技術者認定試験3名合格、パソコン利用技術検定19合格した。次年度も検定受験をさらに促進するために授業にも絡め、講習会等を充実させる。 3 実習をとおして継続的に製品製造を実施している。今年度は、コロナ禍で外出は、難しかったが、来年度は、授業を通じて身に付けた技術や製造した製品を持ち、生徒を外部と関わらせることで、自己肯定感を高めたい。 4 今年度は、展示会や工場見学などが、中止になり、外部施設見学は実施できなかった。、来年度は、より実践的な工場・施設見学、授業となるよう工夫していきたい。
工業化学類型	2 資格取得と検定受検の促進 3 ものづくりをとおした職業人の育成 4 企業・外部施設との連携	2 2学期に工業化学類型2年生は三種危険部取扱者と計算技術検定の全員受験を実施した。その後、希望者がパソコン利用技術検定2級、3級と有機溶剤作業主任者講習に挑戦した。 3 実習朝礼での訓話や1～3年の実習や課題研究の中でのものづくりに関する実験テーマを数多く体験させることができた。 4 新型コロナウイルス感染防止のため、企業見学や施設見学が中止となり、十分な連携が取れなかった。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
各教科	1 資格取得と検定受検の促進 2 授業や実習における規範意識の向上 3 エンカレッジスクールの評価と計画の促進 4 次期学習指導要領に基づく授業改善 5 オリンピック・パラリンピック教育の充実 6 主権者教育の充実	1 学校再開より、丙種危険物取扱者、計算技術検定、パソコン利用技術検定と資格取得を推奨した。また、3学期には乙種危険物取扱者、消防設備士、有機溶剤作業主任者講習などの取得を呼びかけた。 2 授業遅刻、授業準備、開始と終了の挨拶を徹底し、規範意識の定着を図った。 3 エンカレッジスクールの完成年度であることから、評価基準の見直し、学習内容の選定を行った結果、反復学習の定着を図ることができた。 4 ICTの活用をはじめとしてアクティブラーニングを取り入れた授業を展開した。また、オンライン授業の導入など生徒の学習の向上に努めた。 5 オリンピック・パラリンピックが延期となり全校の取り組みとしての推進教育を来年度への先送りとした。授業や体力テストの中でオリンピックや一流選手のパフォーマンスを紹介する機会を作った。 6 現代社会の授業において、東京都知事選挙を扱った。その結果、選挙権を持つ生徒(7月時点)のうち、39%の生徒が投票に行った。【課題】投票率50%を目標にする。政治について気軽に話せる雰囲気を作り出す。
経営企画室	1 学校経営状況の把握と分析 2 学校経営参画の推進 3 適正な事務運営 4 施設・設備の保安全管理 5 校舎改築準備の適正管理	1 必要な情報を収集分析し、学校運営に係る予算を適切に執行した。引き続き学校経営状況の把握と分析を行い、来年度につなげる。 2 教職員との連携に努め、学校経営に積極的に参画した。引き続き教職員と連携し、学校経営参画の推進を図る。 3 コンプライアンスを遵守し、根拠や規則に基づいた事務処理を行った。今後も日常的に業務の進捗確認を適切に行うことにより、適正な事務運営を行い、業務改善を図っていく。 4 故障箇所等は速やかに修繕し、適切な維持保全に努めた。引き続き施設設備の維持保全に努め、環境改善を図っていく。 5 改築に係る資料閲覧や現場確認は可能な限り対応・協力を行い、実施設計作業の円滑な進行に努めた。引き続き校舎改築準備作業に遅滞がないよう進行管理を行う。
改築委員会	1 改築工事に向けた検討 2 地域住民との連携と協力	1 今年度で基本設計の検討は終了した。今後、さらに進んだ検討を行っていく。 2 今年度は、工事の遅れもあり、地域住民との連携等はなかったが、今後仮校舎のの施工に向け、地域住民との連携を図っていく。
教育課程委員会	1 学校課題の抽出・課題解決策の検討 2 R4教育課程の実施に係る検討 3 新たな学校設定科目の設置	1 チャレンジ講座の内容検討を行い11講座とし、新2年生に希望調査を実施し受講講座を決定した。また、必修選択自由選択科目の受講者を調査し開講講座を決定した。 2 新学習指導要領に基づいた科目の設定と体育の修得単位数変更に伴う時間割等を検討した。 3 チャレンジ講座に関する説明会を2回実施し、講座内容を周知するとともに、希望予備調査と本調査を実施して受講者を決定した。
類型選択指導委員会	1 類型選択指導計画の策定と実施 2 コース選択指導の実施 3 生徒の適性に合ったコース選択の実施	1.コロナ禍のため、1回目の希望調査が、実施できなかったため、初めの指導が遅れた。来年度は、希望調査を予備をいれて3回実施したい。 2.進路の資料を基にした担任との面接と各類型からのものづくり基礎時の説明が功を奏した模様で、人数の偏りは、あまりなかった。来年度も同様に進めたい。 3.担任との面接結果と、本人の希望を優先して、第2希望までに収めることができた。今回は、1学期に実施した適性検査の結果も参考になったので、次回も実施したい。
図書運営委員会	1 図書資料の計画的な収集・整理・保管・提供 2 生徒の読書活動の推進のための図書館利用の促進 3 受託者(業務責任者)への適切な業務指示と法令を遵守した図書館運営 4 未読率の改善	1 図書選定基準に基づき、年間を通して蔵書の見直し、補充を行うことができた。専門科目、エンカレッジの教育課程に即した蔵書の充実を引き続き図る。 2 図書リクエスト制度を見直し、専門科目の強化を行ったことにより、図書館利用を促進した。校内の広報活動を積極的にを行い、図書館利用者の促進を図る。 3 業務仕様書に基づき適切な業務指示を行った。継続して仕様書、図書館マニュアルに基づいた適切な業務指示を行う。 4 ICTを活用した図書館オリエンテーションの実施。教員からの読書案内や授業内の読書活動の推進を行った。
教科書選定委員会	1 令和2年度選定教科書の調査研究 2 委員会の適正な開催 3 適正な教科書選定	1 各教科に調査研究について、確実な調査と資料作成を依頼し集約ができた。 2 6月と7月に3回開催し、周知と調査研究の集約及び確認作業を行った。 3 調査研究作業に十分な時間と適正な時期の委員会開催を引き続き行う。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
学力向上推進委員会	1 就職試験・大学受検に合格する学力の定着にむけた授業力向上 2 生徒の学力を正確に把握し、基礎学力の定着を図る 3 生徒授業評価の実施 4 教員同士の相互授業参観 5 教員のICT活用授業	1 エンカレッジスクール3年目として、基礎基本の徹底した指導・育成が十分に行えた。次年度もエンカレッジスクールとしての特性を生かし、継続して授業力を向上を図る。 2 学年団で基礎力診断テストが実施した結果、平均してレベルD-が多数であった。次年度は教材を変更し、補講や補習の対象生徒の範囲を変えてスタディサポートシステムを確立し、成長を望む生徒を伸ばして行くようにする。 3 集約した授業評価の結果を検討し、次年度に反映させる。次年度も継続する。 4 相互参加によって、教科を超えた授業参観が行われ、指導法を共有する良い契機となった。 5 若手教員を中心にICTを活用した授業が増加した。特に数学科では共通した教材を開発し、授業内容を統一して実施している。他の教科でも工夫を凝らした教材を開発し授業に生かしている。次年度もICTの活用の増加や効果的な活用について検討していく。
SC・YSW・いじめ対策委員会	1 スクールカウンセリングの充実 2 特別な支援を要する生徒指導の充実 3 校内研修の充実 4 自立支援チームとの連携 5 いじめの早期発見 6 いじめ防止策の充実 7 SCとの連携 8 YSWとの連携	1 今年度は、学校再開後すぐに分散登校(偶数奇数に分けての登校)の時に、1日SC全員面接の日を設定し実施した。この面接後に、必要な生徒にはSCの個別面接にて支援を行った。また、各学年ストレステストからSC面接希望者や面接が必要な生徒を抽出し個別面接を行うことで、継続面接に繋がるケースも増えている。生徒本人からの申し込みも徐々に増えSC認知度は年々上がっている。 2 新入生招集日・入学式後の相談により特別な支援を要する生徒の把握がある程度できており、今後も継続していく。特別支援教育心理士巡回相談は年間80時間実施し、生徒支援の充実を図った。また、令和3年度から開始する通級に向けての生徒面接や各種発達検査等も積極的に実施した結果、1年2名、2年2名の通級申込があった。次年度は特別支援教育心理士を2名体制、年間150時間を検討中である。次年度も生徒指導・支援の一層の充実を図っていく。またコーディネーターと自立支援担当が一層連携できるよう、週1回程度の打ち合わせ時間を確保していく。 3 年2回実施予定であったが、研修会は8月に1回、2回目は、2月に予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止とした。次年度は、研修会の回数を学期1回程度(年間3回)に増やし、発達障害の理解や対応の工夫についての研修や事例検討会等を通し深めていきたい。 4 月1回の定例会により、情報共有を行い、自立支援チームとの連携を図った。また、自立支援担当者として特別支援教育コーディネーターが自立支援チームと頻りに情報交換を行い、担任や生徒支援を行った。必要に応じSCとも連携することで、自立支援チームとSCが協力し生徒支援に携わるケースも増加している。 5 SC実施の全員面接やストレステストがいじめの早期発見に役立っている。いじめ案件に対しては、臨時委員会を開催し、生徒対応を迅速に行うことができた。 6 前年度の反省を踏まえ、いじめアンケートの内容を漢字にルビを振り、質問内容を分かり易くし、全員記入欄を設けた。また、相談希望の有無や誰に相談したいかについても明記した。次年度に向け、より良いアンケートになるよう検討を継続していく。 7 担任や学年との連携、自立支援チーム(YSW)との連携がスムーズに行えるよう養護教諭(特別支援コーディネーター兼務)がパイプ役となり調整を行った。毎週SCと情報交換や協議を行うための時間を確保し実施した。 8 担任や学年との連携、自立支援チーム(YSW)との連携がスムーズに行えるよう自立支援担当がパイプ役となり調整を行った。毎週YSWと情報交換や協議を行うための時間を確保し実施した。
安全衛生委員会	1 職場における安全衛生に関する検討 2 職員の健康維持	1 月一回全日制・定時制合同で委員会を開催し、常に危険箇所等の確認を行い、産業医の助言を受けながら労働環境の改善に努めた。 2 毎回の委員会で職員の健康状況の確認と共有を行った。産業医の助言をうけ、職員の健康について協議し、健康が維持できるように努めた。
学校保健委員会	1 生徒の健康づくりの推進 2 学校医等と連携した生徒の健康促進の検討	新型コロナウイルス感染拡大に伴い、5月までの休校、以後の分散登校、3学期の緊急事態宣言により、学校保健計画を立てることが出来なかった。学校医の健康診断は9月から11月に実施。業者検診(腎臓、心臓・結核)は、7～8月の実施であった。その他の講演会等も全て中止となった。次年度は、現段階では例年通り実施できるよう準備を進めている。 学校保健委員会2回(9・2月)はコロナウイルス感染拡大のため書面開催とした。1回目は、定期健康診断結果を中心とし、2回目は、今年度の学校保健活動を中心に書面に報告を行った。
入選委員会	1 現行の入学者選抜方法の検証 2 実技検査の作成	1 本校の望む理想の生徒像を確定させ、問題作成委員会へ適切に指示し、実技検査 問題及び面接質問内容を確定させた。次年度以降は入学生の実態を把握し、今年度の出題問題を基に、エンカレッジスクールとしての構想を立てる。 2 前年度の状況を振り返り、適正な実施とミスのない作成に取り組んだ。

	今年度の取組目標	今年度の成果と課題
ICTリーダー会議委員会	1 ICT機器の点検 2 ICT機器の利用に関する検討	1 TAIMS端末のリース期間終了のため、交換を行った。また、全てのICT端末にMicrosoft社のTeamsをインストールし、校内のICT環境の推進に努めた。 2 全生徒にO365のIDを配布し、授業等に運用した。また、端末を持っていない生徒にはタブレット端末の貸し出し、ネット環境が整っていない生徒にはポケットWi-Fiを貸し出した。
防災教育推進委員会	1 学校安全計画の検討 2 保護者、地域との連携の検討	1 年間4回の避難訓練を実施したが、2学年を対象とした1泊2日宿泊防災訓練は中止となったため、アルファ化米体験として防災教室を実施した。 2 今年度、地域で実施している避難訓練等は中止となった。高齢化が進む近隣では高校生の協力が必要であるという要望を受け、今後は連携について検討し、地域貢献に取り組んでいく。
AL推進委員会	1 AL推進指定校としての研究の充実 2 各教員のAL型授業への取組	1 AL推進指定校3年目として、本校の特色を活かしたALの推進を行った。また、工業高校のメリットを活かしたSDGsへのアプローチなど、新たな視点を加えたALを推進した。 2 各種研修を通し、昨年度よりも7%多い92%の教員がAL型の授業を実施した。来年度以降は、実施100%を目指し外部講師を招聘した研修や校内研修などをさらに充実させていく必要がある。
人間と社会委員会	1 自己の在り方・生き方観の醸成 2 インターシップによるキャリア教育の充実	1 演習テーマ18に基づいて座学を実施した。より良い学校生活および社会人として生きていくための問題・課題・自己の開発意識を学習した。 2 事前指導で生徒への職業観・勤労観の育成をした上で、生徒の希望や適性に沿うように派遣先を工夫してインターンシップを実施することで、キャリア教育の充実を図った。
	1 教職員の働き方改革 2 服務事故防止	1 月2回の定時退庁日の実施。長期休業日中に閉庁日の実施等の取組で、教職員の超過勤務の削減に努めた。 2 年2回の服務事故防止研修と体罰防止研修を実施し、教職員の意識の啓発を図った。